

診療所内の COVID-19 感染について

本康宗信 静岡薬剤耐性菌制御チーム

静岡県立静岡がんセンター 感染症内科 倉井華子

静岡県でも COVID-19 感染者が増えています。県民の皆様はもちろん、行政機関、保健所、医療機関の方々の懸命な努力で、急速な増加には至っていません。

COVID-19 の感染は患者のみならず、医師自身、医療スタッフにも起こりえます。診療所では、院内で曝露することは少ないと思いますが、症状が出ないまま勤務し、有症状になって初めて、PCR 検査を受け、感染が判明したという事例も見られています。もちろん体調の悪いスタッフは勤務しないように徹底されていると思います。診療所にて、感染が判明した場合の対処はどうしたらよいでしょうか。現時点での対応を県内の保健所の方に伺ってみました。

COVID-19 の患者が受診されていたことが判明した場合は、日本医師会からの通知にありますように、日本環境感染学会の「医療機関における新型コロナウイルス感染症への対応ガイド 第 2 版改訂版 (ver.2.1)対応ガイド」¹⁾に示された基準に従って、保健所で就業の判断がされます。

「曝露のリスク」で「高リスク」「中リスク」と判定された職員の方につきましては、職種に関わらず、14 日間の就業制限をお願いすることになります(表 1)。また、診療所の職員の方で陽性者が出た場合は、他の職員や患者さんとの接触状況について詳細にお尋ねして、「濃厚接触者」の有無を調べるわけですが、基本的に陽性者が常時マスクを着用していらっしゃれば、「飛沫を飛ばしてはいない」と考え、濃厚接触者は発生しにくいと判断します。たとえば他の職員と一緒に食事をされていると、その際は「マスクなし」ですので、一緒に食事をされた職員の方が「濃厚接触者」と判定される可能性が高いです。ただ食事をされた部屋の状況や換気の状況、陽性者との距離など、様々でしょうから、ケースバイケースとなり得ます。「濃厚接触者」と判定された方は、14 日間の就業制限となりますので、もしクリニックの先生ご自身が「濃厚接触者」と判定された場合は、14 日間診療できないこととなります。その場合、代診の先生がいらっしゃれば、クリニックを開いていただくことは差し支えありません。

COVID-19 が疑われる患者を診察する場合には、少なくとも手袋を含む手指衛生を行い、サージカルマスクとフェイスシールドかゴーグルをすることで曝露を低リスクにする必要があります。現時点では、診療所で検体採取やエアロゾル産生をきたす手技を行うことは、極めて少ないので N95 マスクを使用することは少ないですが、装着する場合は、その度にユーザーシールチェックで顔とマスクの間に隙間がないことを確認することが必要です。通常の診療では、医療スタッフは、サージカルマスク、手指

衛生を行うことで、濃厚接触を避けることは可能ですが、更衣室や食事休憩時でのマスクなしの会話では、リスクとなり得ます。時間交代制をとることや、できるだけ、マスクを外さないことが求められます。またマスクを外した後の手指衛生を忘れないようにしましょう。スタッフのご家族に、感染の多い地域から帰省、帰宅された方がいらっしゃる場合には、2週間は経過観察期間として、濃厚接触とならないようにすることも考慮してください。

4月20日には、濃厚接触者に関わる患者の感染可能期間が、症状発現2日前から隔離開始までと変更され、濃厚接触者も1m以内に必要な感染防護策なしで15分以上の接触をした者とされました²⁾。待合室での対策も、考慮する必要があります。病院でも感染者がでると勤務体系に大きい影響をきたしますが、診療所では、休診につながります。慢性疾患の多い診療所では、業務休止による周囲の施設や病院にも、影響があります。無理をして診療するのではなく、可能な対策は今の内に立てておきたいところです。

表1 医療従事者の曝露リスクと対応¹⁾

患者と接触したときの状況	曝露リスク	健康観察	就業制限
マスクをしている患者と数分以上の濃厚接触			
医療従事者のPPE:着用なし	中	積極的	14日間
医療従事者のPPE:マスクなし	中	積極的	14日間
医療従事者のPPE:マスクあり・眼の防護なし	低	自己	なし
医療従事者のPPE:ガウン・手袋なし*	低	自己	なし
医療従事者のPPE:すべて着用(N95なし)	低	自己	なし
マスクをしていない患者と数分以上の濃厚接触			
医療従事者のPPE:着用なし	高	積極的	14日間
医療従事者のPPE:マスクなし	高	積極的	14日間
医療従事者のPPE:マスクあり・眼の防護なし#	中	積極的	14日間
医療従事者のPPE:ガウン・手袋なし* #	低	自己	なし
医療従事者のPPE:すべて着用(N95なし)#	低	自己	なし

就業制限:最後に曝露してから数えた日数

濃厚接触:患者の2m以内で会話、ケアを行う、防護具なしで患者の分泌物や排泄物に直接接触すること(2020.3.10時点)

* 体位変換など広範囲の身体接触があった場合には中リスクになります

エアロゾル産生処置に関与した場合には中リスクになります

(詳細は、下記をご参照ください)

1)http://www.kankyokansen.org/uploads/uploads/files/jsipc/COVID-19_taioguide2.1.pdf

2)<https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/corona/2019nCoV-02-200420.pdf>